



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 338

Februar 2019

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

ドイツ総領事館「ワーキングホリデーの日」の案内

ドイツ総領事館で、ドイツでワーキングホリデーを考えている人を対象に、ドイツやワーキングホリデービザについての簡単なレクチャー、ドイツ語ミニレッスン、懇親会を一度に行う「ワーキングホリデーの日」が開催されます。

懇親会では、ドイツ総領事館スタッフがドイツやドイツでの生活についての質問も受け付けます。

ドイツでのワーキングホリデーに興味のある方や考えている方は是非ご参加ください。

日 時： 2019年2月21日(木) 13:00~17:00

場 所： ドイツ総領事館

(大阪市北区大淀中1-1-88-3501 梅田スカイビルタワーイースト35F)

対 象： ドイツでワーキングホリデーをする資格(18歳~31歳未満の日本国籍を有する方)をもち、ドイツでのワーキングホリデーを計画している人、または考えている人。

内 容： ワーキングホリデーとドイツについての簡単なレクチャー、ドイツ語ミニレッスン、懇親会、ワーキングホリデービザの申請(申請希望者のみ)

申し込み： 参加無料、要申込。

30名(当日ビザ申請をする方最大10名を含む)

先着順、人数に達し次第締め切り

参加を希望の方は、「問い合わせフォーマット」(ドイツ総領事館ホームページより)に、氏名・電話番号・住所・メールアドレス・「2月21日開催の『ワーキングホリデーの日』参加希望」の旨を記入の上、お申し込みください。

☆ワーキング・ホリデー(working holiday)は、国際的に広い視野をもった若い人を育て、相互理解や友好を深めることを目的に、二つの国の間での取り決めに基づき、各々の国が、相手国の青少年に対して、自国で一定期間の休暇を過ごし、その間の滞在費を補うために就労することを相互に認める制度です。

2019年度協会主催行事等の企画について

会長 枘田 義一

2018年度も残すところ1か月半余りとなりました。2019年度の協会主催行事などの催し物及び語学講座・文化教室・文化講座などにつきましては、例年のように5月中旬開催予定の定期総会にてご提案し、ご承認をいただく予定です。

行事予定などについては、例年実行委員会などのご意見をいただき、理事会にて原案を決定しています。草案を作成すべく現在実行委員会や会員の方々からご意見を伺っています。

つきましては、会報を通じて広く会員の方々に特に下記の点についてご意見をいただきたく、お願い申し上げます。

1. 協会主催の行事について
定例化しているクリスマス祝賀会等の開催方式について
定例化行事以外の新規行事について
2. ドイツ語講座・ドイツ文化教室の新規開講クラスの希望について
3. ドイツに関する講座・講演会等の開催について
4. 会員交流・親睦のための催しについて
5. その他協会運営について

行事・催しの実施については、予算や実施場所・時間などの制約上必ずしもご意見に添えない場合もありますが、多くの会員のご希望に応じられるよう創意・工夫をして実現できるように努めますので、ご意見を宜しく願います。

なお、2月(2月17日)・3月(3月17日)の実行委員会にて2019年度の協会活動について協議しますので、是非ともご参加の上ご意見をいただきたくお願いいたします。

ドイツ家庭料理講習会

2018年度 第5回ドイツ家庭料理講習会 開催のお知らせ

昨年の7月にスタートしました今年度のドイツ家庭料理講習会シリーズ、第1回～第4回の講習会は好評のうちに終了することができました。ご参加の皆様には、ありがとうございました。引き続き、本シリーズ最後となります、第5回目の講習会を、以前にもご指導いただきました、お料理研究家の日下部管子さんにご指導していただきます。日下部さんがドイツ留学時代にホームステイされた、ヘルマン家のお料理も教えていただきます。会場と時間がこれまでと異なりますので、ご注意ください。多くの会員の皆様、お知り合いの方々にご参加いただきますようご案内いたします。

◇日 時 : 2019年3月10日(日) 10時00分～14時00分 (10時までに集合してください)

◇場 所 : 芦屋市立潮芦屋交流センターの料理教室

芦屋市海洋町7-1 (0797-25-0511)

阪急・JR・阪神の芦屋駅より阪急バスで潮芦屋中央バス停下車すぐ。

◇料理メニュー：

スープ ポテトのクリームスープ プファルツ地方風 Pfälzer Kartoffelsuppe

メイン 鶏もも肉と野菜の煮込み料理 ヘルマン家風 Kochen von Vogelschenkelfleisch und Gemüse

サラダ 蒸しブロッコリーのチーズクリームソース Gedämpfte Brokkoli-Frischkäse Sauce

デザート 黄桃のケーキ Pfirsichkuchen

◇参加費：1200円(会員は1000円)と材料費

材料費の概算は、追って参加者にお知らせします

◇募集人数：24名

お申し込み:参加ご希望の方は、3月4日(月)までに、神戸日独協会事務室まで、電話・FAX・メールにてお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきます。参加費・材料費は、当日現地でお支払いください。

当日、エプロン、タオル、レシピ(後日参加者に送付)と筆記用具をご持参ください。

第4回ドイツ料理講習会に参加して

会員 吉川 充子

今回の講師は、ドイツ総領事御夫人のマルティーナ・ライリング＝ケーラーさんと料理研究家の日下部管子さんで、ケーラーさんの英語の説明を日下部さんが日本語に訳して下さいました。

メニューはとてもドイツ的な「セルビエッテンクロスとザウアークラウトと焼きソーセージ添え」、デザートに「バニラ・チョコレートプディングの生クリーム添え」ととても盛り沢山でした。

当日は調理実習室の近くの教室で英語のヒアリングの模擬試験が実施されていて、迷惑にならない様に静かに料理講習会が進められました。

私は、会報で“Serviettenklos”のメニューを見て作り方が知りたくて講習会に参加しました。「セルビエッテンクロス」は、「ナプキン団子」という意味です。南ドイツや中部ヨーロッパでは硬くなったパンを利用してよく作られるそうです。この日のパン(ラウゲンブロート)は、ケーラーさんがわざわざご自宅で私達のために焼いて持って来て下さいました。味見をさせて頂きましたが、とても美味しかったです。「セルビエッテンクロス」の作り方は、サイコロ状に切ったパンを、炒め玉葱、牛乳、生クリーム、ハーブそして卵の入った液に浸し約10分間ねかせます。それからパンの塊をラップの上で長いロール状にまとめて両端を絞リアルミホイルで巻き水が入らない様に整えます。それを30分位沸騰した湯の中に入れて煮上げます。冷めてから切り分けて出来上がり。

(辞書で調べたところ、“KLOS”と”KNÖDEL”はどちらも団子という意味です。ジャガイモ団子(Kartoffeln Knödel)は、ドイツのレストランで肉料理の付け合せでよく見ますが、南米からジャガイモが欧州に入った後に考えられた料理で団子料理仲間では比較的新しいようです。

講習後自宅でフランスパンを使いベーコン入りの“KLOS”を作りました。手軽に作り置きのみートソースをかけて頂きましたがとても美味しく出来ました。

最後にこの料理講習会で“KLOS”を紹介して下さいましたケーラーさんと日下部さん、そして御世話をして下さいました皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

ドイツ語談話室

第182回ドイツ語談話室

日時：2019年1月19日(土) 14-16時

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：新年のヨーロッパ政治の展開

今回の司会は林典人氏が担当され、まず現在のヨーロッパ政治情勢が、特に英国のEU離脱に関連して、とても波乱状況にある事に触れられた。メイ首相の提案は議会で否決され、修正の案が出される予定だが、全く先行き不透明の状況である。

テーマに関連して、参加者の皆さんよりの発言の一部を紹介する。

—英国としてはEUからの離脱となっても、スコットランドは独立を選んでEUに残留するのでは。

—英国もいったん離脱はするが、離脱によるデメリットが判り、再度EUに戻るのではないか。

—メイ首相には3つの選択、協定なき離脱、再度の国民投票、EU残留、があると思うが、いずれにしても難しい問題を残すだろう。

—今後中国とインドが世界の2大経済大国になり、世界経済の中心となるのは確かだから、英国問題は長い目で見て、世界の大きな問題にはならない。

—トランプ大統領曰く、ドイツはエネルギーをロシアに依存しているから、ロシアに対して弱腰であり、今後の対露外交上問題である。

—ドイツでは国民の経済格差が大きく、60万人もの路上生活者(避難民でなくドイツ人)がいるようだ。この数は増加傾向にあり、旧東ドイツ住民との格差も依然あるようだ。

—ドイツ国内でも、地域間や大学間における学閥による差別が強いようだ。特に旧東独・西独間の医療関連の学閥差別は強く残っているようだ。

—メイ首相は、英国のEU離脱によるデメリットを、国民によく説明していないように思う。

—現在のEU各国共通の政治的混乱は、避難民問題がそもそもの発端で、それ以前はなかった問題である。避難民を作り出している国の状況を根本的に改善しない限り、エンドレスである。

—避難民と呼ばれているが、実態はほとんど避難民ではなく、経済移民である。

—メルケル氏は、寛容、尊敬、無偏見(Toleranz, Respekt, Offenheit)を説かれるが、経済移民に対してヨーロッパ各国で起きているナショナリズムは、ヨーロッパの結束を弱めている。

今後のドイツ語談話室の予定

第183回 2019年2月16日(土) 14-16時 テーマ：2019年の課題は

第184回 2019年3月16日(土) 14-16時 テーマ：日本の外国人労働者問題

Deutsche Gesprächsrunde

Protokoll der 182. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag 19. Januar 2019, 14 bis 16 Uhr

Thema: Die Entwicklungen in der europäischen Politik im neuen Jahr

Dieses Mal hatte Herr Norihito Hayashi die Gesprächsleitung und erzählte, dass im Moment die politischen Umstände in Europa als ziemlich chaotisch zu betrachten sind, insbesondere durch das Austreten Großbritanniens aus der EU. Der Vorschlag von Premierministerin May wurde abgelehnt und es bleibt unklar, ob ihr Verbesserungsantrag Zustimmung finden wird.

Bei der Gesprächsrunde kam es unter anderem zu folgenden Wortmeldungen:

- Ein Teilnehmer glaubt, dass nach dem Brexit Schottland die Unabhängigkeit wählen und in der EU bleiben wird.
- Ein anderer Teilnehmer glaubt, dass Großbritannien den Austritt aus der EU vollziehen, später aber wieder zurückkehren wird, nachdem die Nachteile erfahren werden.
- Eine Teilnehmerin denkt, dass die drei Möglichkeiten, die Frau May bleiben, nämlich das Austreten ohne Vereinbarung, ein erneutes Referendum oder das Verbleiben in der EU alle mit schweren Problemen verbunden sind.
- Ein anderer Teilnehmer denkt, dass China und Indien sich zu den bedeutendsten wirtschaftlichen Großmächten entwickeln werden, und der Einfluss des Brexit auf die Weltwirtschaft dadurch keine derart große Rolle spielen wird.
- Ein Teilnehmer erwähnte, dass US Präsident Trump bei Deutschland Schwächen sieht, da es von russischer Energie abhängig ist.
- Eine andere Teilnehmerin sprach die Probleme des wirtschaftlichen Unterschiedes zwischen einzelnen Bevölkerungsteilen in Deutschland an. Es gibt mehr als 600.000 Obdachlose, die Zahl steigt insbesondere in den neuen Bundesländern.
- Ein Teilnehmer hat den Eindruck, dass es in verschiedenen Gebieten, auch auf akademischer Ebene zwischen einzelnen Universitäten rivalisierende Gruppen gibt, insbesondere im Bereich der Medizin.
- Zum Brexit denkt eine Teilnehmerin, dass den Leuten die Nachteile des Austritts noch immer nicht gut genug erklärt wurden.
- Ein Teilnehmer denkt, dass die eigentliche Ursache für das heutige politische Chaos in der EU in den Flüchtlingsproblemen liege. Ohne Änderung der Umstände, die die Menschen zur Flucht bewegen, bleibt dies ein Problem ohne Ende.
- Ein anderer Teilnehmer denkt, dass es sich in der Mehrzahl der Flüchtlinge um sogenannte „Wirtschaftsflüchtlinge“ handle.
- Ein Teilnehmer sprach davon, dass Frau Merkel „Toleranz“, „Respekt“ und

„Offenheit“ betont, der Nationalismus innerhalb einiger EU Länder und deren Haltung gegenüber Einwanderern schwächt jedoch den inneren Zusammenhalt der Union.

Nächste Treffen:

Samstag 16. Februar 2019, 14 bis 16 Uhr,

Thema: Was sind die Fragen, die für das Jahr 2019 von Bedeutung sein werden?

Samstag 16. März 2019, 14 bis 16 Uhr,

Thema: Ausländische Arbeiter in Japan

ドイツ新事情 —Deutsche Welle の記事から—

2018年の Unwort

会員 押尾 愛子

日本では毎年、その年の世相を表す漢字を「今年の漢字」として選んでおり、2018年は「災」だった。また新語・流行語大賞では「そだねー」が選ばれた。

同様のことはドイツでも行われていて、“Das Wort des Jahres 2018”は“*Heisszeit*”(暑期)。これは単に、その1年が暑かったというだけでなく、“*Eiszeit*”(氷河期)を連想させる言葉で、気候変動を意識している。

それと並んで、言語学者達から成る審査会が、毎年、“Das Unwort des Jahres”というのを選んでいいる。Unwort というのは「不愉快な言葉」、「醜悪な言葉」という意味だが、特に人間の尊厳や民主主義に反する概念、社会の特定の層を差別したり、誤解を招くような言葉が選定される。

2018年の Unwort は“*Anti-Abschiebe-Industrie*”だった。聞きなれないドイツ語だが、“*Anti*”は文字通り反対を意味する「アンチ」、「*Abschieb*」は動詞“*abschieben*”から来ており、ここでは特に、外国人を母国あるいは第三国に強制送還することを意味する。そして“*Industrie*”は直訳すれば「産業」だが、ここでは転じて「それで金儲けをしようとしている人々や団体」を意味している。つまり“*Anti-Abschiebe-Industrie*”とは「本来実行されるべき強制送還を妨害する団体や人々がいる」という批判で、発言したのは、CSUの議員のアレクサンダー・ドブリントである。このドブリントという人物、前期の交通相で、現在は連邦議会におけるCSUの議員団長を務めるなど、かなりの大物政治家らしい。ドブリントは「強制送還に対抗する訴訟行為は法治国家に対する妨害工作だ」と発言して、それを手助けしている人々を非難したのだ。これは、難民受け入れに反対する、ドイツの右派AfDの支持者が喜びそうな発言である。このドブリントの発言は根も葉もなく、逆に非難を浴びることになった。

他に候補に挙げたのものに、“*Asyltourismus*”(難民ツーリズム)や“*Vogelschiss*”(鳥の糞)がある。“*Asyltourismus*”は「難民は観光旅行気分で来ているのではない」と批判され、“*Vogelschiss*”に至っては、「ドイツの長い歴史において、ヒトラーやナチスは *Vogelschiss* にすぎない」とAfDの党首の一人、アレクサンダー・ガウラントが発言して、問題になった。

2017年の Unwort は“*Alternative Fakten*”だった。これは2017年1月22日に大統領顧問のケリーアン・コンウェイがインタビューで、「トランプ大統領の就任式にオバマ大統領の時よりも多く集まったみたい(実際には少なかった)」と発言したことを指しており、英語の“*alternative*

facts”(もうひとつの事実＝代替的事実)のドイツ語訳である。

審査会は、こうして毎年 Unwort を選ぶことで、言葉に対しての意識を高めてもらいたいと願っている。

Deutsche Welle: “Anti-Abschiebe-Industrie” ist das Unwort des Jahres 2018 (15.01.2019)より
(このコーナーは、神戸日独協会ドイツ語講座の講読クラスLN(火曜日、柘田先生)の受講者が授業で読んだ記事の中から興味深い up date なニュースを随時会報にて紹介しています)

ドイツ新事情 —ドイツ語講座の授業から—

エリゼ条約、そしてアーヘン条約へ

会員 柘田 節子

1月22日にドイツ西部のアーヘン市でメルケル首相とマクロンフランス大統領とによって「ドイツ・フランス協力統合条約」が調印されました。1月22日は世界史にとって「歴史的な日」、1963年1月22日ヴェルサイユ宮殿エリゼの間で、フランスのドゴール大統領とドイツのアデナウアー首相が両国相互の歴史的な和解をし、協力と友好に関する「エリゼ条約(独仏協力協定 Deutsch-Französischer Freundschaftsvertrag)」に調印した日です。

それまで長い歴史の中で独仏両国は普仏戦争(1870-71)、第一次世界大戦(1914-18)そして第二次世界大戦(1940-45)など何度も戦火を交え、お互いに宿敵(Erbfeindschaft)でした。第二次世界大戦後の1950年に仏外相シューマンは「ヨーロッパの統合には、これまで何百年も続いてきた仏独の対立が解消されることが必要である」ことを宣言し、戦争を防止するために経済と軍事における重要資源である石炭と鉄鋼との共同管理構想を唱え、1952年に独仏伊・Beneluxの6か国から成る「欧州石炭鉄鋼共同体(FGKS)」が設立されました。さらに1957年には経済分野での統合とエネルギー分野での共同管理を進展させる「欧州経済共同体(EGW)」と「欧州原子力共同体(EURATOM)」が創設されました。両大戦による大惨禍を経て、その反省の上によってヨーロッパではその統合が進められました。

長年の宿敵同士であったドイツとフランスの和解の過程は決して順調なものではなく、1951年にアデナウアーが初めて西ドイツ首相としてフランスを訪問した当時、フランスとドイツはお互い不信感を抱いていたと言います。冷戦の激化によりヨーロッパの防衛構想としてヨーロッパの統一軍の創設を目ざした「欧州防衛共同体(EDC)」の設立は、ドイツの再軍備に対する警戒心がフランスではまだ余りにも大きかったので、1954年にフランス国民議会の反対で阻止され失敗しました。「自由主義世界」を事実上アメリカ、イギリス、そしてフランスという3つの勢力によって支配することを目指していたドゴールは、アメリカからフランスの核兵器開発への協力等を拒否され、外交政策を修正せざるを得なくなりました。ドイツの最重要課題は占領されていた国土を統一し主権を回復することでした。ソ連など共産諸国からの侵略を想定した場合、陸続きにある独仏両国が協調することでソ連陣営からの圧力に対処する戦略的地政学上から接近することになりました。こうして戦後の独仏和解を確認し、ヨーロッパ統合を主導する両国の「特別な関係」の基礎となる「エリゼ条約」が締結されました。

「エリゼ条約」については、2013年11月に神戸日独協会との共催で「エリゼ条約締結50周年記念講演会」、さらにドイツ総領事館作成のパネル展示「エリゼ条約50周年 ドイツとフランス 友好と協力の半世紀」が開催されましたので、その内容紹介は割愛しますが、民間の国際交流団体の会員としては「青少年の大規模且つ組織的な交流、学校間交流、職業研修等」、「両国相互の言語学習の促進」、「市民レベルでの交流(姉妹都市提携)」は興味ある条項です。条約締結後これまでに約900万人にも及ぶ独仏の若者たちが隣国での交流プログラムに参加し、現在の成人の多くがお互いの国で生活体験を行っています。独仏青少年局(DFJW)では3歳～30歳までの若い人々に対して、毎年9000以上のスポーツ・文化・科学・言語コースや異文化専門教育・研修等のプログラムを支援しています。特に注目すべきは、独仏両国の歴史家が主となりお互いの歴史認識や対立を超えて共同制作した「共通歴史教科書」を、両国の高校生たちが歴史的な観点から両国の関係を理解しようと学んでいることです。両国の若者にとって戦争は考えられないものになったことが最大の変革だと言われています。

新たな「アーヘン条約」は、欧州の外交・安全保障政策における協力連携の強化、環境・気候政策を包括する経済統合の強化、両国国民交流プログラムの拡充が核となっています。イギリスのEU離脱やEUに懐疑的なポピュリズムの広がり、イタリアやポーランド等のEUに懐疑的な政権の誕生する中、独仏の歴史的な和解に大いに寄与した「エリゼ条約」を補完し、EUの統合を深める連携強化を目指し、両国関係を新たな段階へと引き上げ、EU改革への準備とするものでしょう。

(杉谷眞佐子先生ご担当の会話クラス「K5」(木曜19:40～21:00)は、「外国語学習のためのヨーロッパ共通参照枠 CEFR」で外国語学習のための一般的能力に含まれている外国の社会や歴史に関する知識の獲得を授業の目的としています。現在は「分断から統一へ進んだドイツの戦後史」を映像資料で概観し、併せて関連資料を読みながら、戦後ドイツ史への理解を進めています)

事務室からのお知らせ

会報発送ボランティア募集

会報の発送を手伝ってくださる方を募集しております。次回の発送予定日は3月14日(木)です。お手伝いいただける方は、事前に事務室へご連絡(TEL/FAX 078-230-8150)の上、12時半頃事務室にお越しください。

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込×切 など
2月16日(土) 14:00～	第183回 ドイツ語談話室	神戸日独協会 会議室	当日参加可
2月17日(日) 15:00～	実行委員会	神戸日独協会 会議室	当日参加可
3月10日(日) 10:00～	第5回ドイツ家庭料理講習会	芦屋市立潮芦屋交流 センターの料理教室	3月4日(月)まで